

コロナ感染症とこれからの安全衛生活動

講演とディスカッションー 人が参加

第14回働くもののいのちと健康を守る中四国ブロックセミナーは、6月17-18日岡山市の国際交流センターで開かれ初日85人が参加しました（うちオンライン22人）。2日目のハンセン症患者収容施設・長島愛生園見学は、56人が参加が予定されています。



いのちと健康岡山県センター

清水善朗代表委員（過労死弁護団）が「川鉄過労死事件を取り組んできて、証拠保全等の方法を定着させてきた。認定基準もなかったが、こうした闘いで前進してきた。しかし根絶はされていない。過労死を起こさせない闘いが求められている。ハンセン訴訟で長島愛生園に通って勝訴した。感染症による差別をなくする。こうした活動をさらにすすめ



挨拶する清水善朗代表委員

ましよう」と挨拶しました。

講演1 「パンデミックの歴史から、 新型コロナ感染症を振り返る」 岡山協立病院副院長 杉村 悟 氏

続いて杉村氏が講演。「人類の歴史の中で、ペスト、天然痘などパンデミックが繰り返し起きてきたが、天然痘は1980年に根絶された。その教訓は国籍、宗教、人類などの違いを乗り越えて協力したことにある。新型コロナは利権争いのようになって実現していない」「スペイン風邪などインフルエンザには、ワクチンが開発されて治療が進んでいるが、コロナはワクチンはできてきたが変異が早く対応はまだこれからだ。感染症専門医は少なく、人類はウィルスにかかってきたが、それを十分克服していない。第4波の時は、患者が急増して人工呼吸器が不足してその選択を迫られた。患者・家族医療機関が苦悶した。自然破壊からウィルスが人間に流行している。警鐘を鳴らしている」と話しました。



講演2 「これからの労働安全衛生活動」

いのちと健康を守る京都センター事務局長岩橋祐治氏

続いて岩橋氏が講演。「私は『いのちと健康・ローアン労働者・労働組合人訓』を提起している。いのちと健康を守る活動は、労働運動の課題の一つではなく、労働力を売る土台であり、健康はWHOが『疾病が存在しないことだけではなく、自らの健康の決定要因を改善できるようにするプロセス』で『毎日の生活の資源である』というとならえ方が重要だ。当面は大幅賃上げ＝貧困は最大の健康阻害要因だ、長時間・過密労働の規制が大切だ。この活動を進める労働組合の安全衛生活動の強化が大切になっている。ガイドライン、通達・指針を活用し前進・発展を通じて、労働組合運動のバージョンアップ（組織を強化拡大）を実現しよう」と話しました。

争議支援の訴え

故後河内麻季先生
過労死裁判を支援する
会の遺族の訴え



パネルディスカッション

どうするーコロナ感染症の対策、労働時間・条件、人員不足など 医療、福祉、教育、物流分野からの報告と討論

講演を受けて、医療、福祉、教育、物流分野からコロナ感染症拡大の下での、感染症対策の状況、労働者の労働時間・労働条件、人員不足などの実態とその改善の運動と課題などが報告されました。講演された杉村悟氏、岩橋祐治氏が加わり、これらの問題にどう対応していくのかを議論しました。参加者からも質問、意見が出され、コロナ感染症の5類移行への対応、改善を求める方向と運動の課題、労働安全衛生活動の強化などについて討論しました。



教育分野

コロナ禍での医療活動



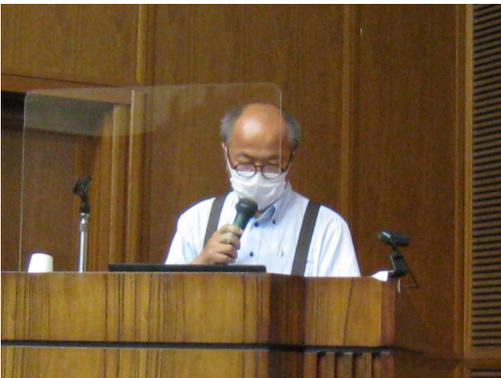
香川県高等学校教職員組合
執行委員長
十河 浩二 氏



岡山協立病院
看護部長
竹田由美子 氏

物流分野

コロナ感染症クラスター対応と労働実態



建交労働徳島県本部
書記長
野口 正良 氏



さくら苑リハビリセンター
統括責任者
伊達 隆 氏

働くもののいのちと健康をまもる中四国ブロックセミナーの経緯と運営

一、ブロックセミナーの経緯

1. いのちと健康をまもる全国センターは、安全衛生活動の教訓、経験の交流や活動家の養成などをめざし、1999年以降「働くもののいのちと健康を守るセミナー」として日本の東西で、05年からは各ブロック別で開催。中国ブロックでは05年から中国5県で開催されてきました。
2. 08年全国センターは、ブロックセミナーの発展、地方センターの確立の目標を方針に追加し、ブロックとして中四国を区分。この区分によることや幅広い経験や教訓などを得るために中四国ブロックとして開催し、2009年第1回高知、10年香川、11年山口、12年愛媛、13年広島、14年岡山、15年山陰、16年高知、17年徳島、18年香川、19年山口、20年（コロナ感染で中止）、21年愛媛、22年広島、23年岡山での開催となりました。

二、ブロックセミナー実行委員会の運営

こうした経緯を踏まえ、運営は各県代表者による実行委員会の協議により、現地実行委員会で作業をすすめる体制としています。実行委員会は①セミナーの準備、②セミナーの発展、③各県の活動の交流、④地方センターの確立を位置づけて運営することをめざしています。